

## 【赤塚郷土研究会】

## 佐潟周辺の自然(砂丘)及び歴史文化の活用とその保全・改善について

## 1 概要

佐潟の背後に広がる砂丘は、越後平野を形成した広大な砂丘の中でもかつての地形をとどめている貴重な場所であり、砂丘とあわせた赤塚地区の街歩きの計画や、砂丘を通して佐潟の魅力を発信していくなどの取り組みをすすめるもの。

## 2 経緯

- 平成 28 年度から、新潟国際情報大学と連携し砂丘ウォーキング講座を開催
- 平成 29 年度は、赤塚佐潟歴史ガイドの協力により砂丘のコースも案内を開始
- 赤塚・佐潟地図研究会の会議を立ち上げ、赤塚や佐潟を散策する際の資料として活用するマップ作りを検討している。

## 3 課題・問題点など

- 佐潟の水源である砂丘や御手洗潟、その周辺の歴史文化をあわせた取り組みを行っていく必要がある。
- 砂丘や御手洗潟の保全も、佐潟の周辺自然環境の一つとして、保全のあり方や活用等について検討していく必要がある。
- 御手洗潟の環境改善が必要(ヘドロの堆積や不法投棄など)

## 4 今後の取り組み

- 赤塚・佐潟地図研究会の会議を継続し、赤塚や佐潟とあわせて砂丘地も紹介するマップを作成する。
- ガイドの活動を通して、砂丘及び御手洗潟も含めた佐潟周辺の自然や歴史等の魅力や、佐潟、御手洗潟の水が赤塚の砂丘地農業を支え、潟の恵みが人々の生活を支えていることなどを情報発信していく。
- 御手洗潟の活用として、途絶えていた中道の復活を関係部署と協議しながらすすめていく。

## 参考：御手洗潟の中道について

御手洗潟には、かつて潟を横断する通路があり、地元の方々に利用されてきたが、現在は途絶えてしまっている。航空写真によると、昭和 58 年 5 月に撮影したのもでも、道がかろうじて半分残っている様子が確認できる。

(なお右の写真は昭和 50 年 11 月撮影のもの)



## 佐潟周辺の地形・史跡を活かした“まち歩き”関連活動

### 1. 赤塚・佐潟歴史ガイドへの協力

平成 26 年に実施された「赤塚・佐潟観光ボランティアガイド養成講座」で受講し修了生により「赤塚・佐潟歴史ガイド」が発足。主に、中原邸一般公開時に佐潟公園から中原邸までの区間をガイド案内している。

当会（赤塚郷土研究会）は、昭和 56 年発足して今年で 36 年を迎える。この 36 年間、赤塚地域についての歴史を中心に掘り下げるなど、赤塚地域で最も古い地域団体である。当会の長年積み重ねた情報を、歴史ガイドの方々へ情報提供の協力をを行い、赤塚地域の発信を行っている。

### 2. 赤塚の地形を研究・発信

新潟国際情報大学教授 澤口晋一氏（専門：地形学）と同大学教授 小林満男氏と協働で赤塚地域の地形の研究および発信を進めている。

平成 28 年度に実施した「赤塚地域の魅力とお宝展」では、砂丘講座および砂丘ウォーキング講座を実施。澤口氏の解説により、赤塚の地形の魅力を発信した。



図 1. ウォーキング講座の様子

「魅力とお宝展」の主催は実行委員会で行い、当会はその母体となっている。講座では、赤塚・佐潟歴史ガイドメンバーも参加した。

赤塚地域の地形は、佐潟南岸および佐潟北岸を「浜堤（ひんてい）」と呼ばれる地形と、御手洗潟から北へ 400～500m 程先に広がる（佐潟の北側・研修センター周辺も含む）地形として「砂丘（新潟砂丘）」がある。赤塚の砂丘地形で、全国的にも貴重な砂丘地形「パラボリック砂丘」や、その先越前浜地区は「バルカノイド砂丘」といったような、砂丘の形成に付随する地形が辛うじて残されている。

こうした、全国的にも貴重で珍しい砂丘地形を発信しようと、赤塚佐潟歴史ガイドに協力して、砂丘地形も案内を始めた。



図2. 赤塚地域の地形図（カシミール3Dより）

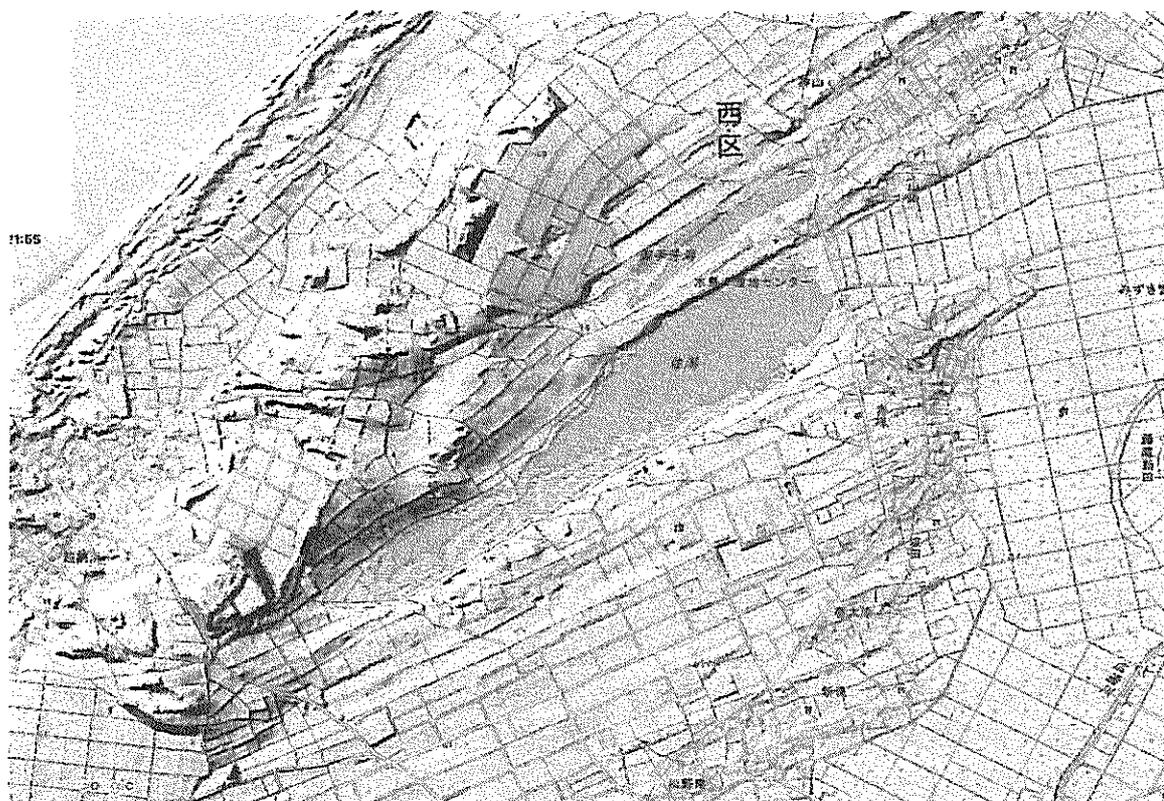


図3. 佐潟周辺の地形図（スーパー地形・カシミール3Dより）

こうした、砂丘地形の案内活動を開始するにあたり、赤塚地域の観光案内マップの作製に向け、西区農政商工課を中心に、コミュニティ佐潟（石黒伸夫氏）、赤塚佐潟歴史ガイド（飯田氏・河合氏・関氏）、情報大学（澤口氏・小林氏、学生1名）、当会（太田）、地域課（杉山氏）、環境政策課（小林氏）などで構成される「赤塚・佐潟地図研究会」を設け、検討を進めている。

この中で、御手洗潟にあった中道を復活させ、今後の砂丘案内コースで利用できないかという話題も上がり、中道の復活に向けた検討も同時に行っている。

なお、御手洗潟の地形は、浜堤列の間の凹地（堤間地）にある「堤間湿地」であり、現存する市内の堤間湿地として貴重な存在である。



図4. 地形好きな方に砂丘地形を特別案内

新潟砂丘は、全長約76kmの「日本一長い砂丘」である。そのうち、佐潟北岸に広がる“清三郎山”、“茨山（三角点52.1m）”、“鷲山”と呼ばれる50m級の砂丘の高みが残されており、50m級の砂丘が連なるのも全国的に珍しく、赤塚地域の砂丘を今後注目されるよう、様々な活動を進めていきたい。

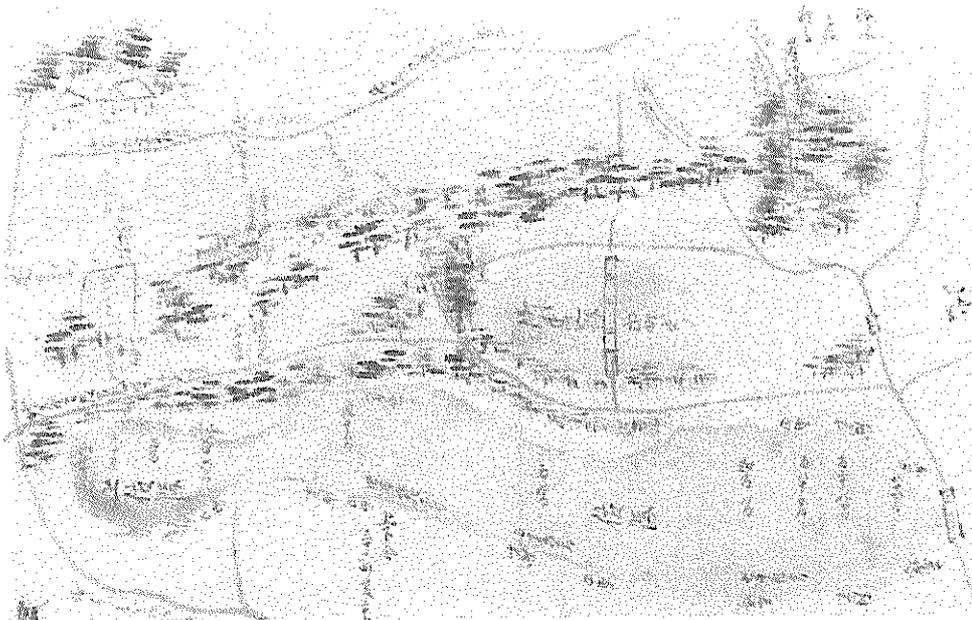


図5. 文化14（1817）年の絵図（赤塚郷土研究会所蔵）



図6. 御手洗瀧にかかる中道（構成図：個人蔵）

佐瀧は、様々な団体が関わり活動が進められており、周辺にはゴミが少ない。しかしながら、御手洗瀧は全く手付かすな状態であり、ヘドロの堆積が深刻で、上流部にはたくさんのゴミが捨てられている。

佐瀧と並んで、赤塚地域の畑作に多大な貢献をしており、佐瀧に飛来する鳥類を共有している。御手洗瀧の保全・活用について今後必要と思われる。